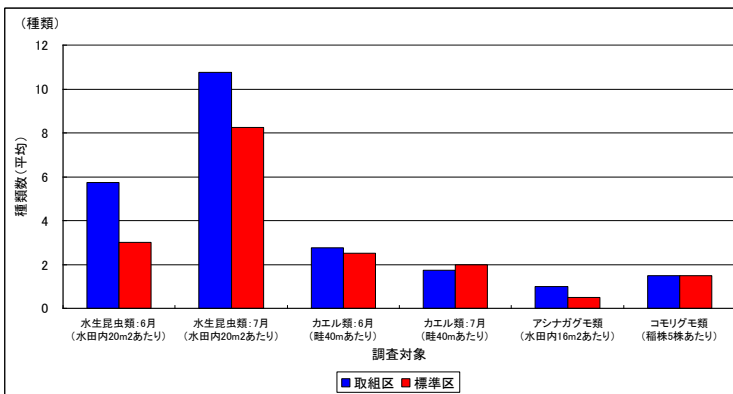


# 中 干 延 期

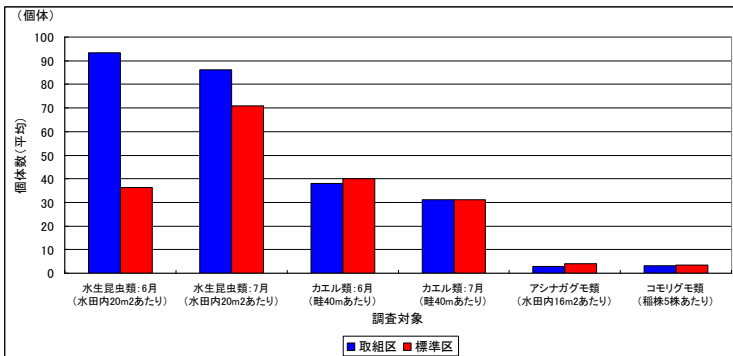
## 取組区と標準区の比較

	種類数		個体数		多様度指数※	
	取組区	標準区	取組区	標準区	取組区	標準区
水生昆虫類:6月(水田内20m <sup>2</sup> あたり)	5.75	3.00	93.50	36.25	1.19	0.81
水生昆虫類:7月(水田内20m <sup>2</sup> あたり)	10.75	8.25	86.25	70.75	2.45	1.91
カエル類:6月(畦40mあたり)	2.75	2.50	38.00	40.00	1.07	0.82
カエル類:7月(畦40mあたり)	1.75	2.00	31.00	31.00	0.45	0.60
アシナガグモ類(水田内16m <sup>2</sup> あたり)	1.00	0.50	3.00	4.00	0.12	0.00
コモリグモ類(稲株5株あたり)	1.50	1.50	3.25	3.50	0.67	0.56

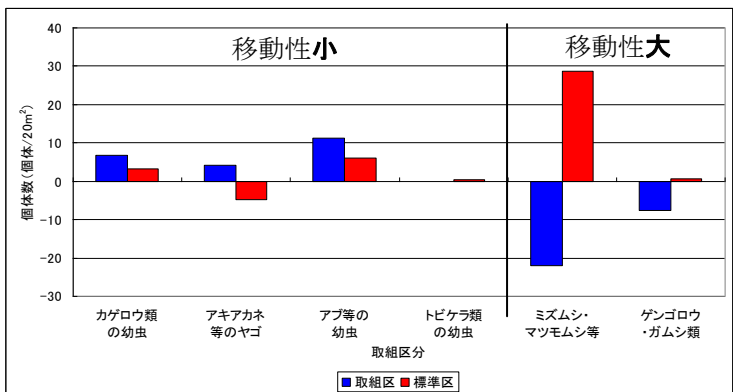
※多様度指数は「種の豊富さ」と「個体数のばらつき」を評価したもので、数値が大きいほど生き物が豊かでバランスが取れていることを意味する。



種 類 数



個 体 数



水生昆虫類の6月から7月にかけての個体数変化



中干延期で水が張られたままの水田



水田でみられたオオタニシとシャジクモ

中干延期の取組区分において、取組区と標準区を比較すると、水生昆虫類の種類数と個体数について、取組区のほうが多くなる傾向が認められた。

季節変化についてみると、移動性の小さいカゲロウ類やトンボ類のヤゴが取組区で増加し、移動性の大きいミズムシやゲンゴロウ類が標準区で増加した。